

令和4年度 ちぐさこども園 自己評価報告書

1. ちぐさこども園の教育目標

- 「意欲」 …… 面白いことや楽しいことを十分にする体験を通して、
「〇〇したい」につながるエネルギーを心身ともに培う
- 「感性」 …… 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く
- 「思いやり」 …… 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、
他者のことを慮る心や態度を培う。

2. 本年度の重点取組み事項 スローガン 『学び合い』

- ① 育ちの連続性をふまえた、保育者の意図の明確化と具体化。
(=子どもの主体性を尊重した保育課程の見直し)
- ② 保護者への発信内容の精査と双方向性の向上。(=保育価値や子育ての喜び・悩みの共有)

3. 重点的な取組みへの評価

項目	取組み内容	評価
① 育ちの連続性をふまえた保育課程の見直し	◎子ども(発達)に応じた保育実践の推進 ・より豊かな素材の活用(未満児での絵の具、ハサミ等) ・子どもの主体性を尊重するための遊びの継続と共有	B+ ・素材の活用は良かったが、より子ども(保育)に活かすには、素材の内容や活用タイミングの精査が必要 ・遊びの継続には、場所や行事の組み方・内容等、園全体を見渡した取り組みが肝要。
② 保護者との情感共有	・コドモンの積極的な活用(頻度増、園内掲示等) ・コロナ緩和に応じて、行事や保育参加が再開し、保護者の生の体験を増やした。	B ・コドモンの活用状況は、学年・個人間でバラツキがあり、内容を含めた園内での研究が必要。 ・「双方向」の観点では工夫の余地がある。また、多様な保護者の状況に応じた園の対応が益々必要になってきている。

4. ちぐさこども園運営の総合的な評価(重点事項以外も含む)

評価	理由
B+	<p>・近年継続して取り組んでいる「子どもの主体性を尊重した遊びを中心とした保育」が着実に広がっている。園として相乗効果がより発揮されるよう、各学年、各保育者がつながる園の取り組みが必要。(保育課程への反映と共有、准職員への研修実施等)</p> <p>・休憩(休日)の適切な取得等、「働き方改革」が前進中なので、保育の質向上のためにも、より良い職場環境づくりに取り組んでいく。</p> <p>・在園保護者とは一定の共有が図れているものの、多様な保護者が増える中、「保護者支援=子ども支援」の意識転換とそれに応じた仕組みづくりが今後の課題。</p>

5. 今後の課題

- ・根拠のある(=発達の連続性をふまえた)「面白い保育」の実践。
(保育課程の精査、園内職員間共有、行事見直し、働き方改革推進等)
- ・保護者支援の推進。(土曜日保育時間の延長、年間行事見直し等)